



「紫陽花 & 救急ヘリ」

患者さんの権利

- 1 安全で、かつ平等な最善の医療を受ける権利
- 2 疾患の治療等に必要な情報を得、また教育を受ける権利 6 医療上の苦情を申し立てる権利
- 3 治療法を自由に選択し、決定する権利
- 4 プライバシーが守られる権利

- 5 常に人としての尊厳を守られる権利
- 7 継続して一貫した医療を受ける権利
- 8 生活の質(QOL)や生活背景に配慮された医療を受ける権利

601773

- ② 平成26年度 佐賀県総合防災訓練(医療救護所運営訓練)に参加して
- ③ 新病院建設だより・・・シリーズ No.5
- 4 妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師になりました
- 5 嬉野医療センター附属看護学校スポーツ大会
- 6 九州グループ主催就職説明会
- 7 就職説明会に参加して
- ❸ 平成26年度 病院見学会およびインターンシップを開催して
- 8 編集後記



平成26年度 佐賀県総合防災訓練(医療救護所運営訓練) に参加して

薬剤科 村田健司

今回の県総合防災訓練には当院からは医師1名、 看護師3名、業務調整員2名で参加しました。去年、 当院 DMAT は中等症(黄タグ)救護所担当でしたが、 今年は重症(赤タグ)救護所を受け持ち、昨年より も緊迫した訓練を行うことができました。重症救護 所の活動はトリアージエリアで赤と判断された患者 さんを病院へ搬送するまでに、応急処置を施し安定 化させることが目的となります。また、どの患者を 最初に医療機関へ搬送するかという順位付けも救護 所活動では重要な鍵となってきます。順位付けは自



救護所のみならず隣接する救護所の患者も含めて行うため、情報の共有が必要不可欠です。



ここで少し私個人のことを書かせてもらうと、 DMATの中では業務調整員という役割で活動して います。実際に被災地(現場)へ派遣となると現地 までどうやって行くか、現地の状況・ニーズをどう 掴むか、チームの生活環境をどうするかなど多くの 問題があり、それらの問題を解決し医療支援の体制 を作るのが業務調整員の役割となります。また今回 の救護所訓練では、患者情報の収集・記録、持参資 器材の管理、本部との連絡などを行いました。

嬉野は大きな断層も無く、東北大震災が起きても東南海地震の危険が叫ばれてもいまひとつ実感がわ かないのが実情だと思います。しかし、そのような嬉野でも土砂災害や高速事故、玄海原発事故などの 災害発生の可能性は常にあり、また東南海地震が起これば津波の被害が予想されている宮崎や大分に当 院からも DMAT、医療班共に派遣されることになると思います。

当院は昨年度から佐賀県の地域災害拠点病院に指 定され、本年度も継続して災害マニュアルの改訂や、 災害医療勉強会、机上訓練、多数傷病者受け入れ訓 練を実施しています。なかでも受け入れ訓練は院内 だけの訓練ではなく、近隣の消防も巻き込んでの訓 練が計画されています。いつ災害が起きても拠点病 院としての責務を果たせるよう、今後も皆さんのご 協力をよろしくお願い致します。





שע-ג No.5

5月20日(火)に佐賀市で、第1回業者選定委員会を開催しました。

6月27日までに11社の業者から参加表明がありましたが、最終的に、技術提案書審査対象業者は4社に絞り込まれました。今後は、この4社から提出された技術提案書・プレゼンテーション審査を通じて1社に決定されることになります。

業者が選定されますと、いよいよ基本設計、実施設計と業務が進行していきます。(基本設計期間: 6.5ケ月、実施設計期間: 7ヶ月)

その間、選定された設計事務所はもちろんですが、その他いろいろな関係機関(嬉野市、JR、電力会社、バス会社、タクシー会社、土木事務所、県庁関連部署など)との連携・調整業務が目白押しとなっていきます。

今回は、現在、毎週火曜日に実施しています"建設委員会"の進捗状況について、少しばかり記したいと思います。

1) 建設委員会のメンバー

院長、副院長、統括診療部長、事務部長、看護部長、薬剤科長、副看護部長(2名)、放射線技師長 計9名

2) 討議内容

新病院基本整備計画に沿った病院建物配置図、階層別診療機能・病床数、診療科別病床配分数、全部門に関する平面図部門構成図などについて協議しています。

設計業者を選定し、ヒアリング等を実施し配置図等が決定していきましたら、各部門への専門業者、コンサルト会社などからのアドバイスを通じて、より効率的、インパクトのある病院 建物を構築していくことになります。

従来の病院建築物にはないような斬新なアイデア、あっと驚くような、しかしどこかしら"優しさや"、"ぬくもり"のある病院づくりを目指していきます。

3) 課題・問題点

- ①嬉野温泉駅 (仮称) と国道3 4号線 (病院建物救急入口予定) の高低差が3.6 m~4.0 mもあり、この高低差を考慮 (最大有効活用) する必要がある。
- ②①の高低差を利用し救急部門入口(救命救急センター)を2Fとする。
- ③大型放射線治療機器等(リニアック、MRI、CTなど)を2Fに配置可能か、 などをメンバー全員で鋭意検討中であります。
- ④職員、来院者別の駐車場へのアクセスの検討。来院者種別の出入口ゾーンの設定(特に、救急来院者・家族等出入口と一般来院者出入口の導線の在り方、それに伴う駐車場配置の問題など)



"知識・意識、洞察・理解は行動に変えないと何の価値もない。

THE THE WASHINGTON

妊婦・授乳婦薬物療法 認定薬剤師の紹介





この度、当院薬剤科薬剤師 久富由紀さんが、日本病院薬剤師 会の妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師に認定されました。

妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師とは、妊娠・授乳期における 薬物療法に関する高度な知識、技術、倫理観により、母体の健康 と母乳保育の利点に配慮するとともに、胎児・乳児等の次世代へ

の薬物有害作用に配慮した薬物療法を担う薬剤師です。

認定を受けるには、(1) 薬剤師としての実務経験を5年以上有し、日本病院薬剤師会の会員であること。(2) 病院または診療所に勤務し、妊婦・授乳婦の薬剤指導に引き続いて3年以上従事していること。(3) 研修施設において、カウンセリング技術や情報評価スキルの確認トレーニング等の実技研修を40時間以上履修していること。(4) 妊婦・授乳婦領域の講習会などを所定の単位(20時間、10単位)以上履修していること。(5) 妊婦・授乳婦の薬剤指導実績が30症例以上(複数の疾患)を満たしていること。(6) 病院長の推薦があること。などの条件を満たし、更に妊婦・授乳婦薬物療法認定薬剤師認定試験に合格しなければなりません。全国でもまだ89人しかいない、貴重な認定薬剤師です。

当院はWHO・ユニセフ認定のBFH(赤ちゃんにやさしい病院)として母乳育児を推進する病院でもありますが、久富さんはその当院に6年間在籍し、主に西3病棟で産婦人科小児科を担当してきました。その間、病棟での指導や母乳教室への参加など、自らの知識を研鑽するとともに、当院の医療に貢献してきました。その実績がこの度の認定に結びついたものと思います。

既に院内ではもちろん、院外でも講演会の講師に招かれるなど、頼りにされる存在となっています。今後もその知識を生かし、妊婦・授乳婦に対する薬物療法を母子双方にとって安全且つ適切に実施するため、関連の医師・看護師などとの連携や、妊婦・授乳婦カウンセリングの提供など、ますますの活躍を期待したいと思います。





嬉野医療センター附属看護学校スポーツ/ナム

看護学校教員 柴田裕子

平成26年6月13日、嬉野市社会体育館でスポーツ大会を実施しました。

本校の学生1年生から3年生まで、全学年で実施しました。種目は、バスケットボール・ドッジボール・ バレーボールの3種目でした。学年毎のチームを結成し、トーナメント方式で行いました。





「スポーツ大会に参加して」学生の声

スポーツ大会実行委員長 61 回生(2 年生) 渡辺泰典

各競技を通して、クラス内や学年間の交友を深め、 思い出を作ることができ、先生方との親睦も深めることができました。また、学校長 河部庸次郎先生、副 学校長 岡忠之先生にはお忙しい中、足を運んでいた だき、温かい目で競技を見守っていただきました。天 候にも恵まれ、体育館は風通しが良かったため熱中症 の心配もなく、大きな怪我人も出ずに無事に終えるこ

とができました。

今回、この行事の企画、 準備、実施等、全体の指揮 をとらせていただきました が、特にどうすれば皆が楽 しく、怪我なく終えること ができるかということに時 間を要し、悩みました。周 囲の方々に様々な助言や手 助けを受け、その結果、成

功に終わらせることが でき、私自身にとって も良き思い出、良き経 験となりました。



61 回生(2 年生) 山田美咲

今年の6月13日(金)に嬉野医療センター附属看護学校の一大イベントであるスポーツ大会が開催されました。今年のスポーツ大会では、ドッジボール・バスケットボール・バレーボールの3種目があり、学年ごとでチームを組み、それぞれのチームで競い合いました。各種目でそれぞれの学年の応援が体育館中に響き渡り、最初から最後までとても賑やかな雰囲気でし

た。中には試合に負けて悔しかったり、優勝して嬉しかったり、様々な思いで涙を流した人もいます。自分が試合に出ていなくても同じクラスメイトが頑張っている姿を見て涙を流している人もたくさんいました。

また、レクリエーション では長縄をしました。長縄



では各学年が混合でチームを編成したため、初めて1年生と2年生と3年生が一緒に力を合わせて切磋琢磨し、 交流を深めることができました。同じチームになった 先輩や後輩が仲良く話している姿も見受けられました。



か州グループ追催就職託明会

人材確保プロジェクト 岩永由香



H27年度採用の九州グループ主催看護職員就職説明会が今年も5月10日の鹿児島を皮切りに始まり、当院からも多くの優秀な看護職員を確保する為、人材確保プロジェクトメンバーで計画、参加をしました。

まず、今年は嬉野温泉駅フロントへの病院移転をイメージし、EXILE-ATSUSHIが歌う銀河鉄道 999 を使用したプレゼンテーション DVD を一新しました。作成に

あたっては、プロジェクトメンバー以外にも救命や OP 室スタッフ、医師、事務や放射線科、リハビリの方々に協力して頂いたお陰で、新病院建設へ向け、明るい希望に満ちた DVD が出来上がったと思います。いつものメンバーへりぽーとんも今年は等身大で参加し、集客に一役買っていたようでした。

鹿児島県、長崎県、大分県、佐賀県、福岡県の5会場に参加し、嬉野ブースへの来場者は合計213名で、どの会場でも自分たちの就職を決めるポイントを熱心に尋ねていたようです。嬉野という土地は若い学生さんにはなじみがないものかもしれませんが、プラス1の看護や進んだ教育体制、働きやすさ、住みやすさなど嬉野医療センターのよさを頑張ってアピールしてきました。後は、た



くさんの方が嬉野医療センターへの就職を希望してくださる事を期待しています。最後になりま したが、事務部看護部を始めご協力頂きました皆さま、ありがとうございました。







就職説明会に参加して

東2病棟看護師 萩尾優佳

5月31日に佐賀で行われた就職説明会に参加させて頂きました。就職説明会では病院紹介 DVD を上映し病院の紹介を行いました。私は、DVD 作成から携わらせて頂いたのですが、撮影の時は緊張と、恥ずかしさもあり上手く演じきれなかったなと思っていました。しかし、完成した DVDを見せて頂き、嬉野医療センターの明るく温かい雰囲気が伝わってきて、自分が出演



しているのを忘れて「素晴らしい DVD だなぁ」と感動しました。きっと、就職説明会に来られた方にも嬉野医療センターの明るく温かい雰囲気が伝わったと思います。 各病院の全体への説明後、病院ごとのブースへ分かれて学生さん達の質問に答えたり、病院の紹介を行いました。私も看護学生の頃に就職説明会に参加したことがあります。看護学生の頃何を知りたかったか思い出しながら、採用人数や就職したい病棟の希望は聞いてもらえるのか、病院・病棟の雰囲気、教育体制、給与、勤務体制などを説明しました。そのなかで看護学生さんから「仕事は大変ですか?」と質問がありました。私は、就職して1年目の頃は出来ない事ばかりで患者様や先輩看護師に申し訳ないと感じたり、看護師という責任の重さを感じつらかった事を話しました。しかし、先輩方に熱心に指導してもらったり、親身に相談にのってもらい、



今では少しずつやりがいや楽しさを 感じることが出来ている事、恵まれ た環境で仕事が出来ている事を伝え ました。そして、嬉野医療センター は教育体制が整っており看護師とし て成長していける環境であること、 サポートしてくれる先輩がたくさん いることなど、病院をアピールする ことが出来たと思います。



平成26年度 病院見学会および インターンシップを開催して

教育担当看護師長 富永文子

平成 26 年 6 月 22 日 (土) に、平成 26 年度病院見学会および インターンシップを開催しました。

当日は、へりぽーとんのパンチングバルーンが出迎える中、本校の学生さんをはじめ、遠くは鹿児島県や福岡県から31名の方が参加されました。そのうち8名は、九州グループ主催の就職説明会で嬉野医療センターの説明を聞いて、当院に関心を持ち参加したとのことで、就職説明会の効果を実感することもできました。

午前中は、嬉野医療センターおよび看護部概況説明と病院内見学、午後からは病棟にてインターンシップを行いました。インターンシップでは、看護師と共に看護ケアや処置、看護師間の連携などを体験したり、看護師の話を聞き、当院の看護を身近に感じることができたようです。意見交換会では、「病院の理念に非常にひかれました。病棟でも病院の理念がきちんと浸透されていると感じることができました。」「説明会で説明を聞いて、実際に見学できたことで雰囲気を感じとることができてとてもよかったです。」「とても充実した時間で、働きたいという意欲が出てくるような場でした。」などの感想が聞かれました。アンケート結果では、30名の方が「嬉野医療センターでぜひ働きたい」「候補として」と回答しており、嬉野医療センターの看護を肌で感じ、就職を決









定するうえで重

要な1日となったようです。病棟で、学生さんと一緒に看護実践して頂いた看護師の皆さん、お忙しい業務の中、親切に対応していただきありがとうございました。また、就職説明会からご協力いただきました関係者の皆様に感謝いたします。

後は一人でも多くの学生さんが当院への就職を希望 されることを期待します。

編集後記

絶好の機会

自分にはあとどれくらいの時間が残されているのだろうか?人生には絶好の機会に何度か巡り逢うことがある。でも、長くは続かない。絶好の機会というのは、ほんの一瞬しばらく開いて、その後は永遠に閉じてしまうのではないかと不安になるときがある。だから、絶好の機会があるときはそれをつかみ(実際に行動を起こす)、ないときは作り出さなければならないということを知っておく必要があるような気がする。